

数字で見る淡路ビジョンの2050年の姿

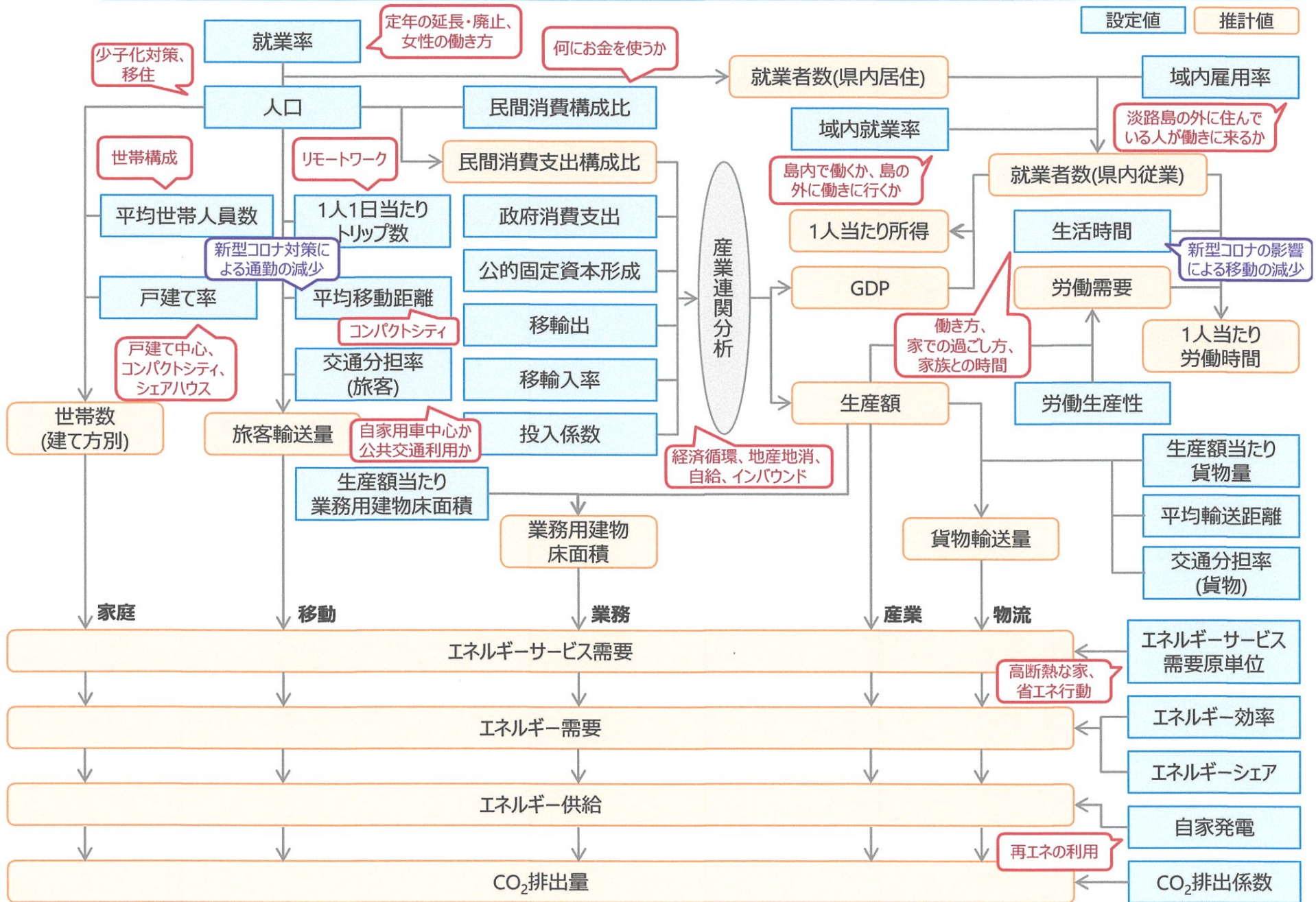
認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路





- 淡路ビジョンに描かれた内容を、数理モデルを用いて定量的に表した。
- 数理モデルでは、社会・経済・環境の各変数間の整合性を取り、将来の社会の姿を示す指標の数値が推計される。
- 2種類のシナリオを想定し推計を行った。
 - 成り行きシナリオ: 少子高齢化がこのまま進み人口が減少し、経済も衰退する。地球温暖化などの環境問題への対策も十分に行われない。
 - 夢のシナリオ: 少子高齢化などの地域課題への取組が進み、人口減少が緩和され、経済も持続可能な規模で維持される。脱炭素社会、持続可能な社会の実現に向けた対策が実施される。
- 主要な指標の推計結果を以下に提示する。

数理モデルにおける指標間の関係





ビジョンの内容の数理モデルへの反映

市民社会を実現するために、市民が様々な問題への関心・理解度を高めることと、参加の機会を保証する



生活時間に占める社会活動の比率が増加

農業・漁業の後継者不足のため、多様な形態での就農を支援



第一次産業の生産額の維持

地域でとれた農産物を地域で食べる「地産地消」によって、農産物の輸送距離(フードマイレージ)が短くなり、輸送にともなうエネルギー使用量は減少する



第一次産業の島内需要に占める地産地消の比率の増加

地域の雇用が増えて職住近接が進む、あるいはリモートワークが進むと、地域外に通勤する時間が減る



生活時間に占める移動の比率が減少

省エネルギーの推進によるエネルギー需要の削減



省エネ対策の導入

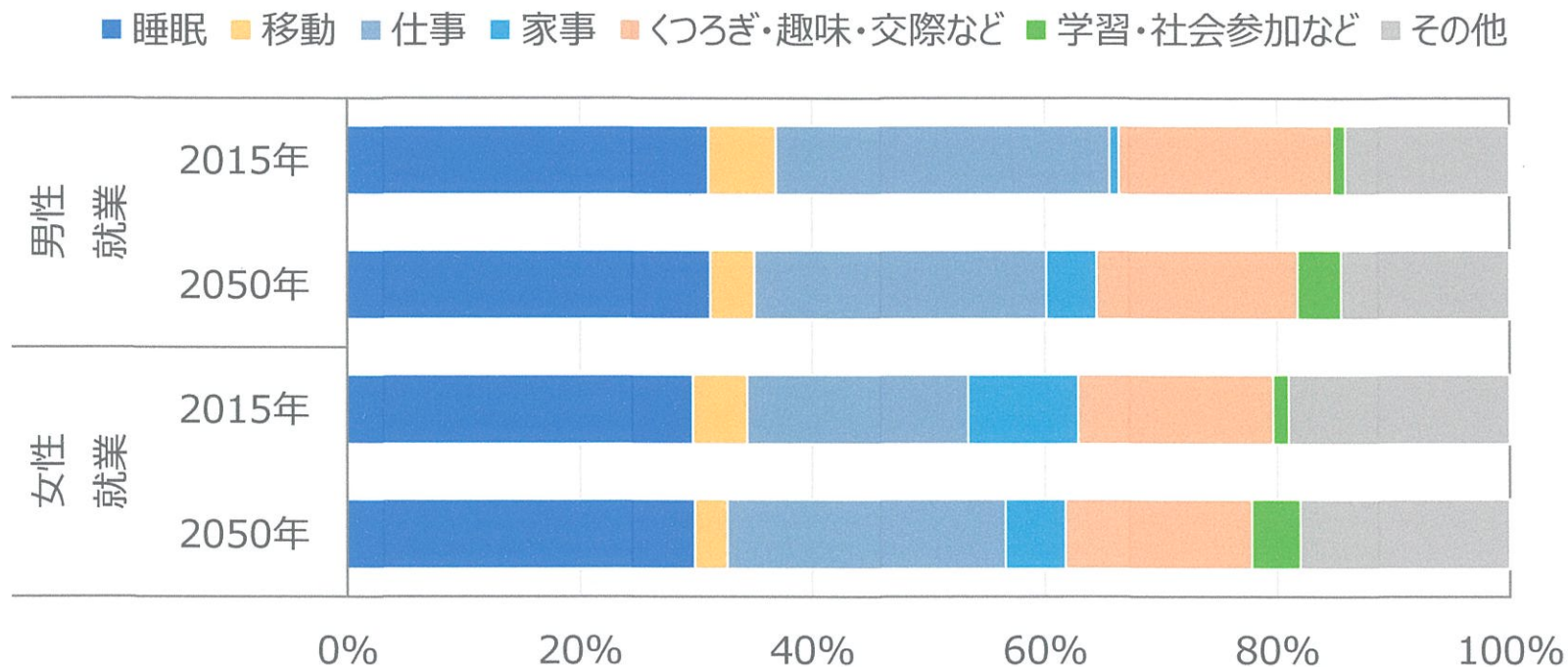
家庭の屋上には太陽光発電パネルや小風力発電を設置し、暖房・温水用には木質燃料ストーブや太陽熱温水器を活用



再エネ設備の導入

- 職住近接やリモートワークが進むことにより移動に掛かる時間が減少する。
- ワークシェアリングなど多様な働き方が普及し、1人あたりの仕事時間が減る。
- 市民参加の機会が増え、社会活動に従事する時間が増える。

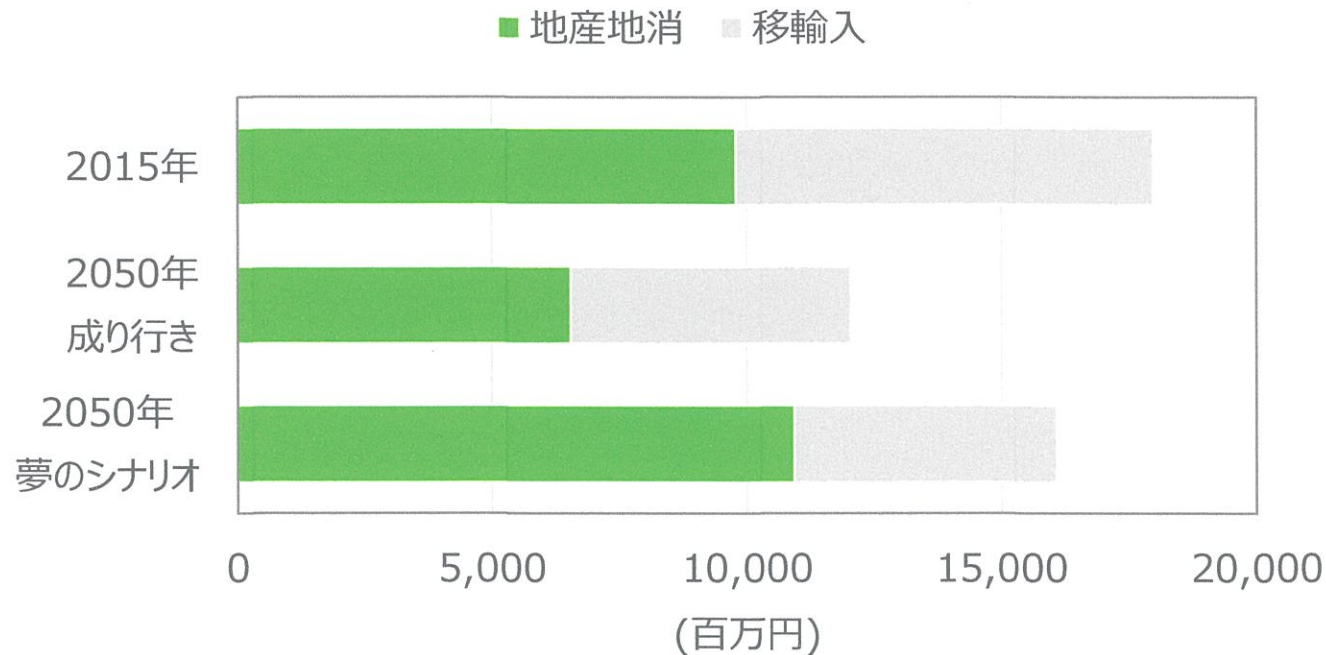
1日の生活時間配分



2050年の淡路島の経済に関するキー指標

- 多様な形態での就農支援により、現状程度の農漁業生産が維持される。
- 学校給食や病院・介護施設を中心に地元食材の活用が進み、島内で消費される農作物や水産物において、移輸入に頼る割合が減り、地産地消が増加する。

島内の農林水産物需要

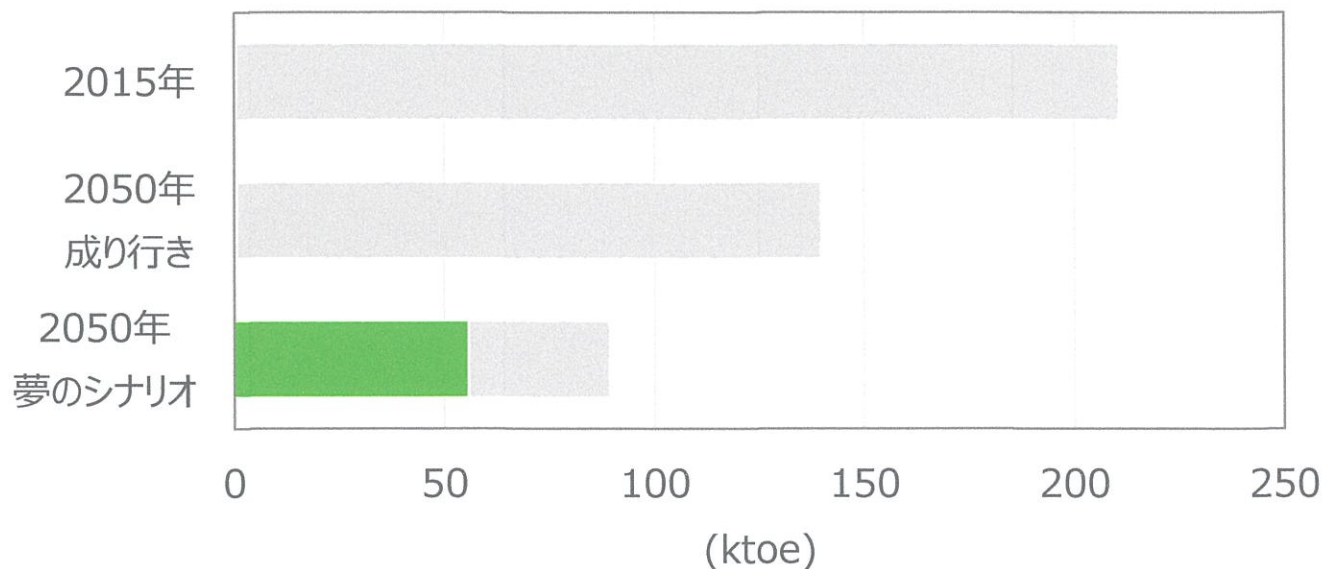


2050年の淡路島の環境に関するキー指標

- 省エネルギー機器や次世代自動車の普及、建物の断熱性能の向上により、エネルギー需要が大幅に減少する。
- 建物への太陽光発電設備の設置が進むとともに、暖房に木質燃料ストーブ、給湯に太陽熱温水器が使用されることで、島内のエネルギー需要の6割以上が地産地消により賄われる。

島内のエネルギー需要

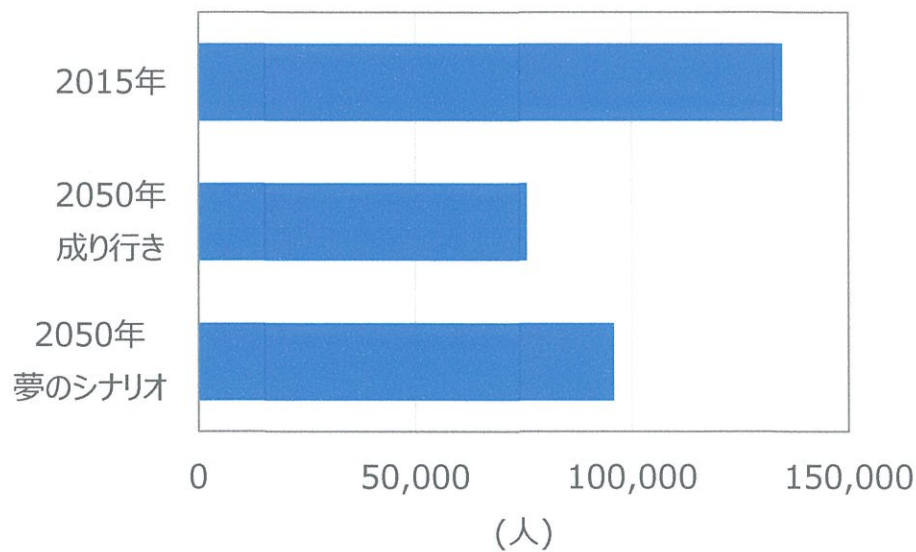
■ 地産地消 ■ 島外から供給



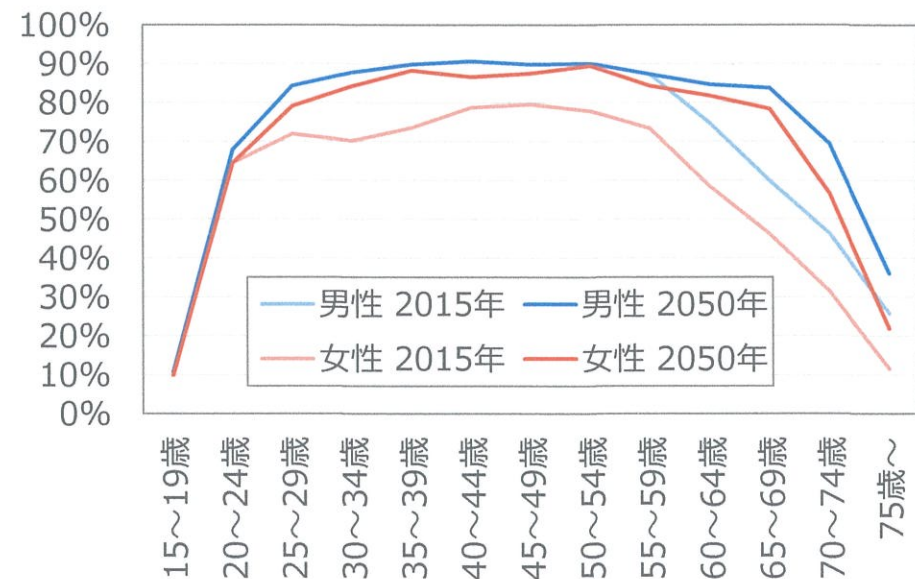
社会に関するその他の指標

- 成り行きシナリオでは人口は40%以上減少するが、夢のシナリオでは30%程度の減少にとどまる。
- ワークライフバランスの改善により、出産後の仕事への復帰がしやすくなり、女性の就業率が向上する。

人口

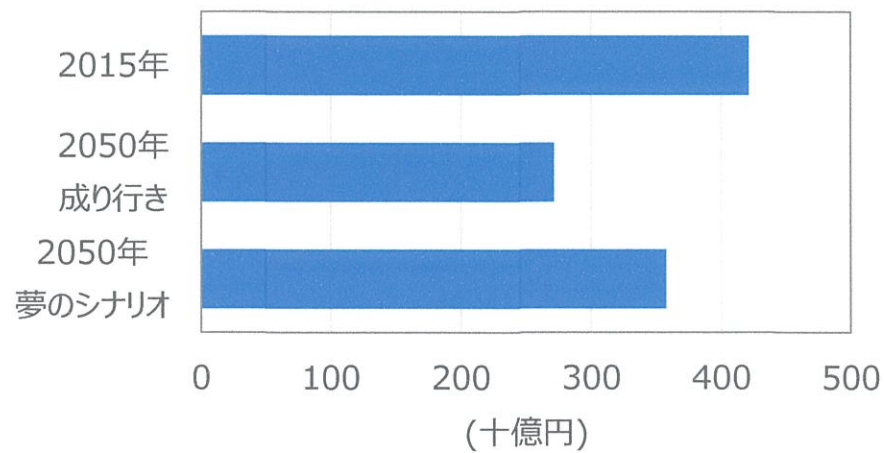


就業率

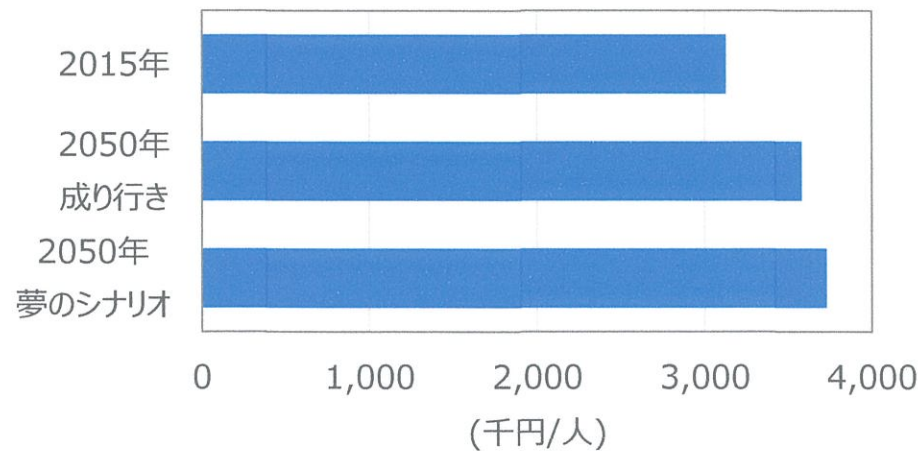


- 人口が減るためGDPの総量は減少するが、1人あたりGDPは増加する。

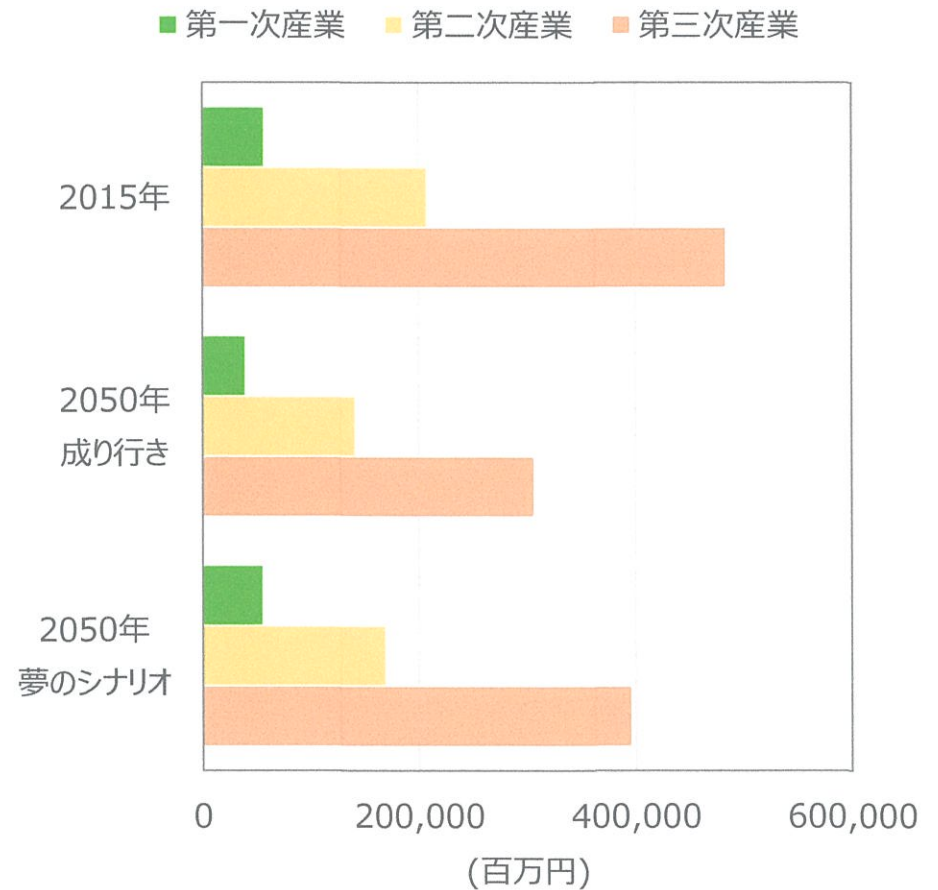
GDP



1人あたりGDP



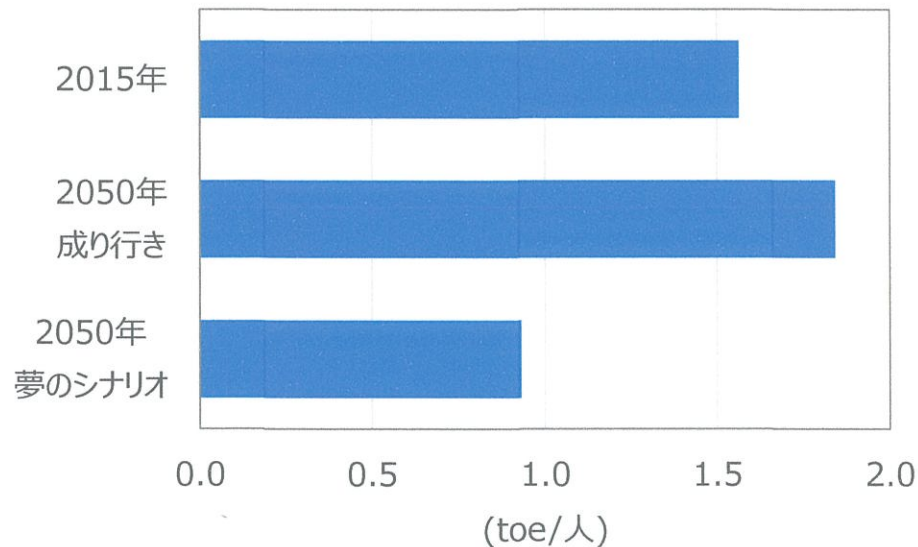
業種別生産額



環境に関するその他の指標

- 各種省エネ対策の導入により1人あたりのエネルギー消費量は現状に比べて約4割減少する。
- 省エネの実施に加え再エネを利用することでCO₂排出量は大幅に削減され、脱炭素社会が実現する。

1人当たりエネルギー消費量



CO₂排出量

